

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1271400267
法人名	社会福祉法人 阿育会
事業所名	グループホーム じゅらく
所在地	千葉県香取市佐原水323-2 (電話) 0478-52-0232

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成21年 3月 21日	評価確定日	平成21年4月7日

【情報提供票より】(平成20年 2月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7人 非常勤 0人 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2 階建て	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有() 円 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	600 円
	夕食	600 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 1,800 円			

(4) 利用者の概要(2月22日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	64 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	石井内科病院、千葉県立佐原病院、むらまつ歯科、佐原中央病院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道に面した分かりやすい場所に「グループホーム じゅらく」がある。周囲に樹木等があり、自然に触れ合える立地環境になっている。施設の1階部分がデイサービスとなっており、相互に連携及び交流が図られている。施設内は明るく開放的なつくりになっていると共に、安全面にも配慮されている。入居者が自由に出入りできるベランダのウッドデッキには、季節の草花・観葉植物の植栽やテーブル・ベンチの配置がなされており、ゆっくりくつろげる空間となっている。家族が宿泊できるゲストルームがあり、入居者と安心して過ごせるように配慮されている。また、犬が飼われており、入居者の心や生活を和ませている。職員は入居者の尊厳を大切にしており、一人ひとりの立場になった対応を心掛けている。共同生活を意識し、相互に信頼し支え合う関係づくりがなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価においては、地域密着型サービスとしての理念の構築が改善点として挙げられていたが、運営推進会議やミーティングにて話し合わせ、地域交流を意識した施設運営の取組みがなされている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で話し合い、普段の業務の気付きを大切にしながら協同作成している。外部評価結果については運営推進会議や家族会で公表すると共に、評価結果を活かした施設運営に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	行政、民生委員、区長、町内会長、地域住民、家族代表、法人代表、職員等を構成員として、6ヶ月に1回運営推進会議を開催している。会議では活動状況の報告や意見交換を行い、サービスの質の向上と地域の理解促進に努めている。また、同時に入居者の家族会も開催されており、家族間の懇親の場となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会時に直接意見や要望等を確認していると共に、家族会や運営推進会議等の機会にも確認を行っている。現在、意見や苦情は挙がっていないが、意見等の汲み取り方法を再度検討し、適切な支援を行っていく予定である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩に出た時に近隣の方々と挨拶を交わす関係が築かれている。また、自治会に加入し、地域の会議に参加している。併設のデイサービスを利用している地域の方々との交流を通して、入居者の楽しみを支援している。今後、少しずつ地域交流の範囲を広げていくことを検討している。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「愛」「尊重」を掲げた独自の理念をつくりあげ、入居者の尊厳を大切にサービス提供に努めている。また、地域共存を常に意識した施設運営に取り組んでいる。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内に理念を掲示すると共に、ミーティングで確認を行い職員全員で理念を共有している。職員は常に理念を意識しながら、入居者が安心できる家庭的な温かい生活を目指した支援を行っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩に出た時に近隣の方々と挨拶を交わす関係が築かれている。また、自治会に加入し、地域の会議に参加している。併設のデイサービスを利用している地域の方々との交流を通して、入居者の楽しみを支援している。今後、少しずつ地域交流の範囲を広げていくことを検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で話し合い、普段の業務の気付きを大切にしながら協同作成している。外部評価結果については運営推進会議や家族会で公表すると共に、評価結果を活かした施設運営に取り組んでいる。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、民生委員、区長、町内会長、地域住民、家族代表、法人代表、職員等を構成員として、6ヶ月に1回運営推進会議を開催している。会議では活動状況の報告や意見交換を行い、サービスの質の向上と地域の理解促進に努めている。また、同時に入居者の家族会も開催されており、家族間の懇親の場となっている。		

【千葉県】グループホーム じゅらく

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	香取市グループホーム連絡会を通じて、市の職員と情報や意見交換を行っている。また、施設運営に関する相談等を随時行っており、市と連携しながら日頃からサービスの質の向上に努めている。その他にも、市からの要請に応じて研修や講演の講師派遣を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に、入居者の生活状況や金銭管理等の報告を行っている。また、生活状況に変化があった場合には随時電話連絡を行っている。6ヶ月に1回家族会を開催し、家族との個別面談を行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に直接意見や要望等を確認していると共に、家族会や運営推進会議等にて確認を行っている。現在、意見や苦情は挙がっていないが、意見等の汲み取り方法を再度検討し、適切な支援を行っていく予定である。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在のところ職員の退職や異動はなく、人材は安定している。管理者は職員のストレス軽減や職場環境に配慮し、退職や異動を最小限に抑える努力をしており、入居者との馴染みの関係を大切にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部研修に参加しており、職員のレベルに応じた育成を計画的に行っている。また、月1回内部での勉強会を実施している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	香取市グループホーム連絡会や研修会等で、地域の事業者との交流や情報交換を密に行っている。また、連絡会では勉強会や施設見学会等を実施し、相互のサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>随時見学を実施していると共に、希望者には体験入居を実施している。出来るだけ早く職員や施設の雰囲気に馴染み、安心した生活が出来るように、家族とも相談しながら対応を工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の希望や能力に応じて、家事等の生活活動を職員と協同で行っている。入居者の豊富な人生経験から学ぶ事も多く、相互に支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前の生活状況や本人・家族の意向を把握した上で、入居後の生活支援を適切に行っている。また、日々の気づき付きや職員間の情報交換を通して本人の意向に沿った支援を行っている。意向の把握が難しい場合は、言葉や表情から意向を汲み取り、入居者の視点に立った対応に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員全員でミーティングを行い、生活課題やケアの在り方を検討している。家族や本人の意向も考慮した上で本人本位の介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヶ月に1回評価を行い、計画の見直しを行っている。また、入居者の生活状況等に変化があった場合や必要と判断された場合は、その都度見直しを行っている。必要な情報を収集し、家族や関係者等と相談した上で新たな介護計画が作成されている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスとの交流が図られており、入居者の生活の活性化に繋がっている。また、デイサービスのリハビリマシンや機械浴槽の利用が可能となっている。美容師及び理容師の資格を有した職員がおり、入居者の身だしなみの支援を行っている。その他、入居者の希望に応じて、外出、買い物、通院等の支援がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力も得ながら、協力病院や希望のかかりつけ医への受診支援を行っている。また、状況に応じて往診も行われている。理事長が看護師であり、日常の健康管理や医療連携の支援が適切になされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応については、契約書に施設の方針を明文化している。また、主治医・家族・職員等の関係者で話し合い、対応及び方針の共有化を図っており、チームケア体制を確立した上で、施設として出来る限りの支援に取り組んでいる。施設内にゲートルームが確保されており、終末期に家族が宿泊できるように配慮されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の書類については、鍵のかかる書庫へ保管し個人情報の保護を図っている。入居者の自尊心に配慮し、相手を否定しない対応を基本として相互の信頼関係を築いている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課の取り決めは無く、一人ひとりのペースを大切にして入居者の希望にそった支援を行っている。希望を言い出せない入居者に対しては、さりげない声掛けや提案を行い、希望を把握するよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望や能力に応じて食事の準備から片付けまで共同で行うと共に、食材の買い物や献立の相談等も一緒に行っている。平日の昼食はデイサービス利用者と食卓を共にし、食の楽しみを共有している。出来る限り旬の物を食卓に出し、季節感のある食事の提供を行っている。また、行事食の提供や定期的な外食会を企画・実施しており、入居者に食の楽しみを支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は広く暖房も完備されている。また、浴槽に昇降機が設置されており、身体状況に応じた支援がなされている。入浴は毎日実施されており、本人の希望に応じて回数や時間等柔軟に対応している。入浴拒否については、声掛けの工夫や時間の変更等で、無理強いせず本人のタイミングに合わせた支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の能力や希望に応じて、家事等の生活活動を共同で行っている。また、様々なレクリエーション活動を通して入居者の心身の活性化を図っている。併設のデイサービスのレクリエーション活動にも参加しており、楽しみながら外部との交流を図っている。また、施設では犬が飼われており、動物とのふれあいが癒しに繋がっている。季節に合わせた行事や誕生会を企画・実施し、入居者の楽しみを支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に応じて、散歩や買い物を実施している。また、天気の良い日にはベランダでのレクリエーションも実施され、あまり出歩けない入居者も十分に日光浴が出来るよう支援している。年1回「グループホームあんじん」と合同で2泊3日の旅行も実施されており、入居者と職員が楽しみを共有し絆を深める大切な機会となっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーを設置し、日中は鍵を掛けずに入居者の自由な生活を支援している。入居者が外に出た時は、無理に引き止める事はせず、見守りや言葉かけにより柔軟に対応している。居室の鍵は設置されていないが、職員は入居者のプライバシーに配慮している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画や緊急時マニュアルを作成している。年2回消防署の協力のもと、消防・防災・避難訓練を実施しており、緊急時・災害時における対策を講じている。また、運営推進会議等で災害時における近隣住民との協力体制の構築を検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の嗜好や状態に合わせた適切な食事提供がなされていると共に、食事や水分の摂取状況を記録している。摂取量が足りない場合は、好みの物や栄養補助食品で必要な栄養を確保している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内はバリアフリーで、玄関・浴室・トイレ等ゆったりとしたスペースが確保されている。居間や廊下は広いベランダに面して、窓が多くとても明るいつくりとなっている。入居者の作品や行事の写真が掲示されていると共に、大きなソファが設置され居心地よく過ごせるように工夫されている。また、入居者がくつろげるように和室があり、希望により家族の宿泊が可能になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望により、馴染みの物を自由に持ち込む事が可能となっており、入居者が居心地良く生活できるよう配慮している。全居室に洗面台とトイレが設置されており、入居者のプライバシーを確保している。エアコンが設置されており、適切な空調管理がなされていると共に、必要に応じてナースコールが設置されており、安全面にも配慮されている。		